言語活動の充実に関する基本的な考え方（１）

言語活動の充実が求められている背景

- **知識基盤社会の到来，グローバル化の進展＝変化に対応していく能力の育成**

  ・幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断
  ・切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々と共存していくこと　等

- **国内外の学力調査の結果**
  →思考力・判断力・表現力等に課題

  ・読解力に課題（PISA調査）
  ・記述式問題に課題（全国学力・学習状況調査等）

- **教育基本法改正等により教育の理念が明確になるとともに，学校教育法改正により学力の重要な要素が規定**

  ○　学校教育法（昭和２２年法律第２６号）
  第30条　（略）
  ②　前項の場合においては，生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに，特に意を用いなければならない。

新しい学習指導要領で「言語活動の充実」を重視

言語活動の充実に関する基本的な考え方（２）

小学校学習指導要領　総則

第１　教育課程編成の一般方針

学校の教育活動を進めるに当たっては，各学校において，児童に生きる力をはぐくむ**ことを目指し，創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で，**基礎的･基本的な知識及び技能を確実に習得**させ，**これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力**をはぐくむとともに，**主体的に学習に取り組む態度**を養い，**個性を生かす教育の充実**に努めなければならない。

その際，**児童の発達の段階を考慮して，児童の言語活動を充実するとともに，家庭との連携を図りながら，児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。**

第４　指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

(1) 各教科等の指導に当たって**は，児童の思考力，判断力，表現力等をはぐくむ観点から，基礎的･基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに，言語に対する関心や理解を深め，言語に関する能力を育成を図る上で必要な言語環境を整え，児童の言語活動を充実すること。**

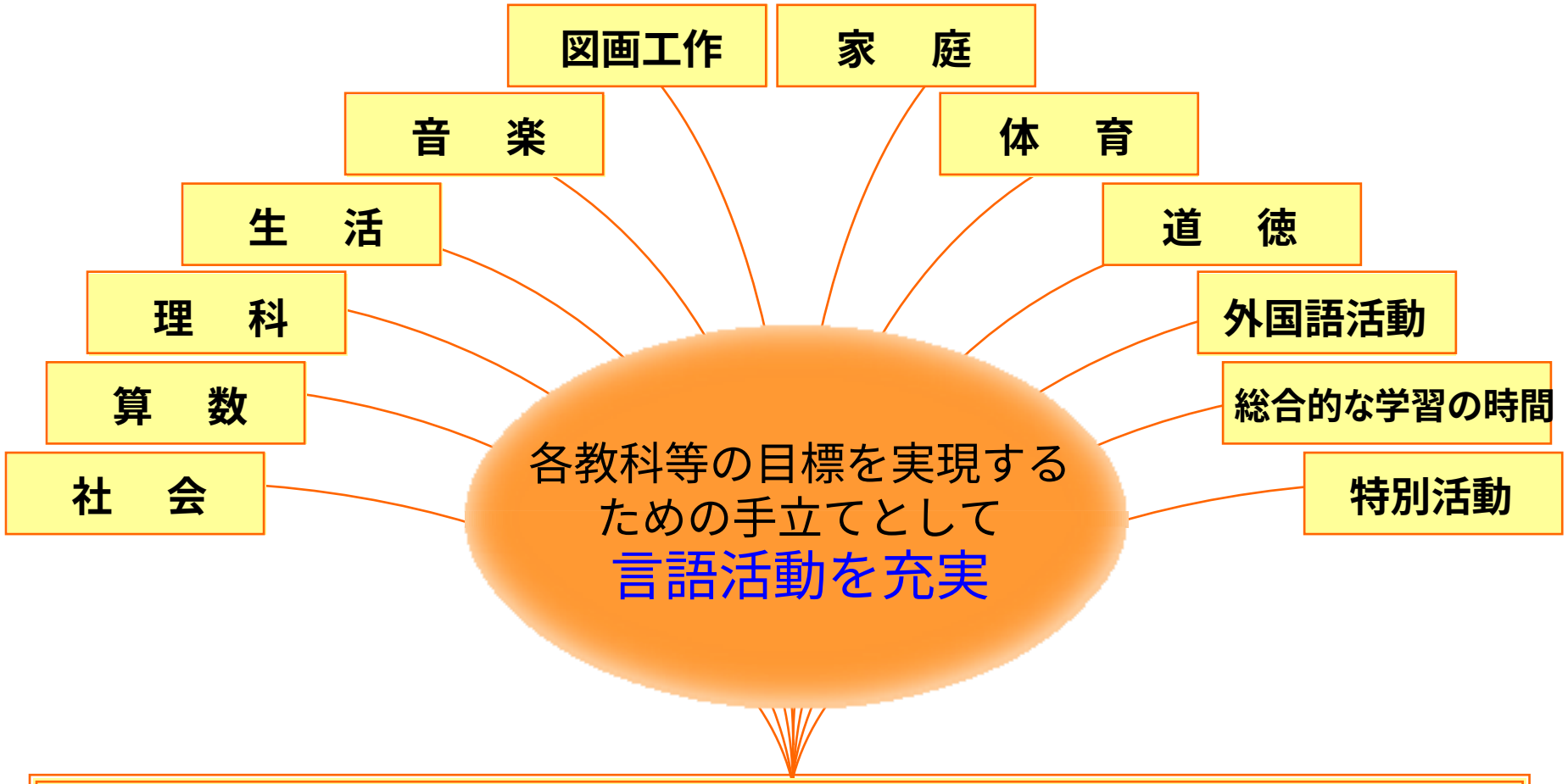
～ポイント～

ポイント1★
各教科等の指導において言語活動を充実すること

ポイント2★
思考力･判断力･表現力等をはぐくむ観点から言語活動を充実すること

ポイント１：各教科等の指導において言語活動を充実

＜各教科等における言語活動の充実＞



国語科：基本的な国語の力を定着させたり，言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに，発達の段階に応じて，記録，要約，説明，論述といった言語活動を行う能力を培う

ポイント２:思考力・判断力・表現力等をはぐくむ言語活動の充実

中央教育審議会答申･･･思考力，判断力，表現力等をはぐくむためには，例えば以下の①～⑥のような学習活動が重要である。これらの学習活動の基盤となるものは，数式などを含む広い意味での言語である。このため，各教科の教育内容として，これらの記録，要約，説明，論述といった学習活動に取り組む必要がある。

①　体験から感じ取ったことを表現する

(例)　・　日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌，絵，身体などを用いて表現する

②　事実を正確に理解し伝達する

(例)　・　身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述･報告する

③　概念・法則・意図などを解釈し，説明したり活用したりする

(例)　・　需要，供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす
　　・　衣食住や健康･安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

④　情報を分析・評価し，論述する

(例)　・　学習や生活上の課題について，事柄を比較する，分類する，関連付けるなど考えるための技法を活用し，課題を整理する
　　・　文章や資料を読んだ上で，自分の知識や経験に照らし合わせて，自分なりの考えをまとめて，A4･1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する
　　・　自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり，これらを用いて分かりやすく表現したりする
　　・　自国や他国の歴史･文化･社会などについて調べ，分析したことを論述する

⑤　課題について，構想を立て実践し，評価・改善する

(例)　・　理科の調査研究において，仮説を立てて，観察･実験を行い，その結果を整理し，考察し，まとめ，表現したり改善したりする
　　・　芸術表現やものづくり等において，構想を練り，創作活動を行い，その結果を評価し，工夫･改善する

⑥　互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる

(例)　・　予想や仮説の検証方法を考察する場面で，予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う
　　・　将来の予測に関する問題などにおいて，問答やディベートの形式を用いて議論を深め，より高次の解決策に至る経験をさせる

言語の役割を踏まえた言語活動の充実

以下に示す言語の果たす役割を踏まえた指導。役割相互の関連性を踏まえつつ，統合的に育成。

（１）知的活動（論理や思考）に関すること

ア　事実等を正確に理解し，他者に的確に分かりやすく伝えること

→児童が理解するに当たって，視点を持たせるようにする

→設定した視点に応じて対象から情報を適切に取り出すようにする

→自分や伝える相手の目的や意図をとらえるようにする

→目的や意図に応じて事実等を整理できるようにする

→構成や表現を工夫しながら伝えられるようにする

イ　事実等を解釈し説明するとともに，互いの考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させること

→事実等を知識や経験と結び付けて解釈し，自分の考えをもたせるようにする

→自分の考えについて，探究的態度をもって意見と根拠，原因と結果などの関係を意識し，説明する際にはそれを明確に示す

→自分の考えと他者の考えの違いを捉え，それらの妥当性や信頼性を吟味したり，異なる視点から検討したりして振り返るようにする

→考えを伝え合う中でいろいろな考えや意見があることに気付くことができるようにする

→考えの根拠や前提条件の違いや特徴があることに気付くことができるようにする

→それぞれの考えの異同を整理して，更に自分の考えや集団の考えを深めることができるようにする

（２）コミュニケーションや感性・情緒に関すること

【コミュニケーション】

→語彙を豊かにし，表現力を育む

→自分の思いや考えを伝えようとするとともに，相手の思いや考えを理解し尊重できるようにする

→自分の思いや考えの違いを整理しつつ，相手の話を聞き，受け止めることができるようにする

→相手の話に対して，状況に応じて的確に反応できるようにする

【感性・情緒】

→様々な事象に触れさせたり体験させるようにする

→感性･情緒に関わる言葉を理解するようにする

→事象や体験等について，より豊かな表現，より論理的で的確な表現を通して互いに交流するようにする

言語活動を充実させる指導と事例

（１）児童の発達の段階に応じた指導の充実

具体的な言語活動を実施するに当たり，児童の発達の段階に配慮する必要がある。

→低学年，中学年，高学年ごとに配慮事項を整理

（２）教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項

言語活動については，国語科で培った能力を基本に，すべての教科等において充実する必要がある。その際，各教科等の特質を踏まえつつ国語科との関連を図りながら，言語活動の考え方や諸点に留意し，取り組むことが必要である。

～指導事例について～

○　事例を参考に，**それぞれの教科等の目標を実現するため，これまでの取組を見直し，効果的な指導に改善していくきっかけ**に。

○　指導の見直しにあたっては，**これまで行ってきた言語活動を把握・検証**することが大事。その上で，**指導計画の作成に当たっては，各教科等の目標と指導事項との関連，教材や教具について十分研究**し，効果的な指導を行うための言語活動の工夫・改善に向けて検討する必要。

○　各学校・教育委員会等におかれては，**言語活動を充実した優れた指導事例の把握・共有と開発・実践**を。